

# ベテラン教員研修講座(中学校)

茨城県教育研修センター  
教職教育課  
☎0296-78-3212(直通)  
平成30年12月7日発行



第1日  
10月19日  
実施

近年の教員の大量退職、大量採用の状況下において、学校には、教員がともに支え合い、ともに高め合える組織集団であることが求められています。OJTの機能を生かしながら日常的に学び合う校内研修の充実や、自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修が必要です。そこで、中堅後期を過ぎた経験豊富なベテラン教員が、学校の中核となって研修をリードしていくことが、大きく

期待されています。

教員は、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて、求められる資質・能力を生涯にわたって高めていくことのできる力が必要とされています。

茨城県教育委員会では、教員の資質向上指標に基づき、「ベテラン教員研修講座」を新設し、2日間の日程で開催しました。

## 研修の様子

講義『これからの学校に求められるベテラン教員の役割』



教職教育課 海老原 治夫 主査

「ベテラン教員の役割は、学校長の経営方針のもと、学校教育目標を達成させるために、若手・中堅教員等への指導・助言を通して組織を活性化していくことが大切である。」と伝えました。

講義『これからの時代に求められる資質・能力を育成する学習指導』



国士舘大学 澤井 陽介 教授

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現することが可能である。」とのお話をいただきました。

講義・演習『カリキュラム・マネジメントの推進』



千葉大学 天笠 茂 特任教授

「カリキュラム・マネジメントとは、全ての教職員の参加によって、教育課程の編成・実施・診断・評価・改善を通して、学校の特色を創り上げていく営みである。」とのお話をいただきました。

## 受講者からの声

「これから、自分がどのようにしていくべきか、また、どのような教師になっていくべきか、考えるよい機会になりました。」

- ・私たちの役割は、とても重要なんだと強く感じました。また、学校の中では考えることができなかったような様々なお話を聞くことができてよかったと思いました。
- ・自分の授業改善だけでなく、若手へのアドバイスにもつなげていきたいと思いました。将来への視野を広げ、進化していけるよう努力したいと思える講義でした。
- ・今までより、学校組織というものを大きな視点で見たり考えたりしなくてはならない年齢にきたのだなと認識しました。まだ、どこをどのように手に入れられるかわからないが、頑張っていきたいと思えます。

# ベテラン教員研修講座(中学校)

茨城県教育研修センター  
教職教育課  
☎0296-78-3212(直通)  
平成30年12月7日発行



第2日  
11月20日  
実施

ベテラン教員研修講座を通して、受講者が若手や中堅の教員を指導・助言し、学校の中核的存在として活躍する資質・能力を伸ばします。2日目は特に、自己の崇高な使命を深く自覚し、コンプライアンス意識を高めることがねらいです。

講義・演習『学校の危機管理』

日本女子大学 坂田 仰 教授



裁判例の動向を分析し、学校経営、教育実践に存在する“落とし穴”を発見するとともに、科学に裏打ちされた危機管理について考える内容でした。受講者からは、「学校のリスクマネジメントや普段からのコンプライアンス研修が、これからの学校教育では必要なことが実感できた。失敗から多くのことを学び取り、経験からではなく、科学的な根拠をもって取り組んでいきたいと思う。」との感想がありました。

講義  
『教職員の信用失墜行為の事例』



教育庁学校教育部義務教育課人事担当 櫻井 千洋 管理主事

具体的な事例を基に、コンプライアンスの意識を高める内容の話でした。受講者からは、「服務規律の徹底については学校で何度も指導されてきたが、今日は服務規律違反が自分の人生・家族・地域にどれだけ大きな影響を及ぼすのかを再認識することができた。」との感想がありました。

講義『教職員の生活設計』



谷田部猛税理士事務所  
谷田部 博貴 税理士

懲戒処分を受けた場合の生活への影響等の話がありました。受講者からは、「講義の内容を若手にも伝えていきたい。」「生活設計について考えることができ、勉強になった。」「信用失墜行為とマネープランの内容がリンクしていて興味深く拝聴できた。」との感想がありました。

受講者の様子

▼演習の課題について話し合いました



▼各グループで話し合った内容を発表しました



学校内のチームワークを大切にして、これからの学校教育を支えていきたい。

学校の課題や危機管理に全職員で取り組もうとする意識を大切にしていきたい。